

事務事業名	市民芸術祭事業	整理番号	14101-000
所 管	社会教育課 文化スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	平成 9年度 ~ 平成 年度	根拠法令・要綱等	
基本計画における位置付け	基本政策 1-4 余暇の充実と生きがいづくり 政 策 1-4-1 文化・芸術活動の促進	関連政策	

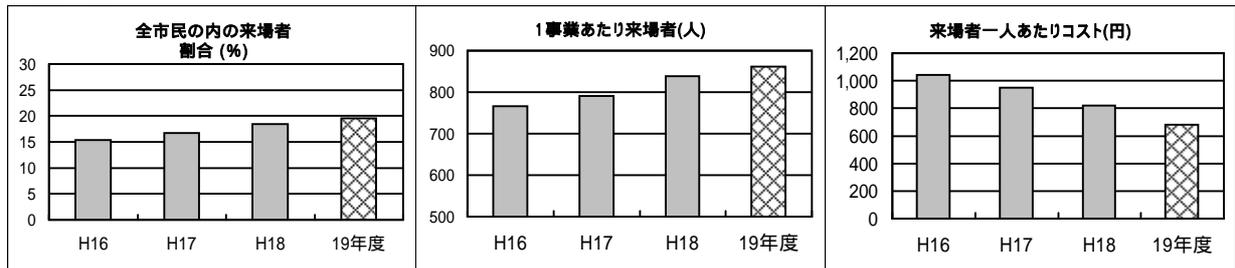
事務事業の内容

目的 (何のために)	芸術・文化活動をする人たちに発表の場を与え、芸術・文化活動の振興を図る。
対象 (誰・何を)	全市民
手段 (どのようなやり方で)	御殿場市文化協会所属団体の代表者を中心に市民芸術祭運営委員会を結成し、芸術祭を開催する。
成果 (どのような状態にしたいか)	市民の芸術・文化に対する意識の向上と積極的参加により、御殿場市全体の文化水準の向上を目指す。
事務事業の背景・住民の意向	少子高齢化、核家族化、高学歴化などを背景に、物の豊かさから心の豊かさへと人々の志向が変化し、芸術文化活動を通じて心の豊かさや、生きがい求められている。
見直し改善の経過	

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度	事業数：17、出演・出品者：3,427人、来場者：13,028人	<p>投入コスト(千円)</p> <p>16年度 17年度 18年度</p>
平成17年度	事業数：18、出演・出品者：3,486人、来場者：14,232人	
平成18年度	事業数：19、出演・出品者：3,897人、来場者：15,916人	

評価指標



事務事業の評価

観点別・一次評価(担当部署の評価)	コメント	
観点別評価	必要性	芸術・文化活動の振興は少子高齢化対策上及び生涯学習活動を推進する上で必要不可欠であり、御殿場市全体の文化水準の更なる向上が期待される。市と文化協会との共同で運営していたが、平成19年度から事務量の比重をより文化協会に傾けるため、臨時職員雇用を実施し、人件費の抑制を図る。今後は文化協会の自主運営に向け、検討していく。
	有効性	
	効率性	
一次評価	B	今後の方向性 手段改善
二次評価(行政評価委員会の評価)	コメント	
二次評価	B	職員の事務量の軽減を図り、改善すべきところは改善をされたい。
		今後の方向性 手段改善

改革プラン

平成19年度からの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層へのPRとして、ステージ部門での幼稚園・保育園への出演を内部検討</li> <li>・各小中学校の部活動を活用して、舞台部門及び展示部門への参加呼びかけの強化</li> <li>・日程等を見直し、夏の部と秋の部の2季に集中的に開催し、ステージ部門のリハーサル回数等を見直す</li> <li>・2季それぞれにまとめてポスター・プログラムを作成することで部門間の連携を図るとともに、使用資源の減量に努める。</li> <li>・市HP上で「市民芸術祭コーナー」設置及び各メディアへの積極的な情報の提供</li> <li>・市と文化協会の事務内容の見直し(文化協会の自主運営に向けて)</li> </ul>
平成20年度以降の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層へのPRとして、ステージ部門での幼稚園・保育園への出演を園と協議</li> <li>・文化協会の自主運営に向けた具体的な検討</li> <li>・各メディアへの積極的な情報の提供(継続)</li> <li>・「市民芸術祭」PRビデオ作成の検討</li> <li>・第24回国民文化祭・しずおか2009との関連と事業内容の検討</li> </ul>
改革により予想される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園へ働きかけることにより、若年層の芸術文化に対する意識の向上が図れ、出演者の高齢化解消にもなる。また、小中学校生徒の参加の機会を創ることにより、芸術文化の担い手となる人材の育成につながる。</li> <li>・集中的に開催することにより各部門の連携が図れ、芸術祭としての統一感が深まる。また、文化協会の事務内容の見直しにより市職員の人件費の縮減が図れ、コストダウンできるとともに、文化協会の組織力の強化にもつながる。</li> </ul>